

# 事業計画区域の中心

青森港は、北海道から東北にかけて点在する再生可能エネルギー発電事業計画区域のほぼ中央に位置しており、それらの海域において青森港を基地港湾として利用することが想定されます。今後、これらの海域に洋上風力発電が建設される場合、青森港は距離的に近く、基地港湾としての利用が可能であるため、SEP船（自己昇降式作業船）の移動距離の短縮にもつながります。また、発電規模が大きい海域においては、一つの基地港湾だけでは建設期間が長期化する恐れがあるため、青森港を他の基地港湾と併用して効果的に活用することで、建設期間を短縮することも可能になります。青森港の活用により、公募時の「運転開始時期」の評価で優位に立ち、事業競争力を高めることが可能となります。

近隣の海域における図

●促進区域 ●有望区域 ●準備区域



# 青森から北日本の拠点へ

# 陸と空を結ぶ交通の結節点

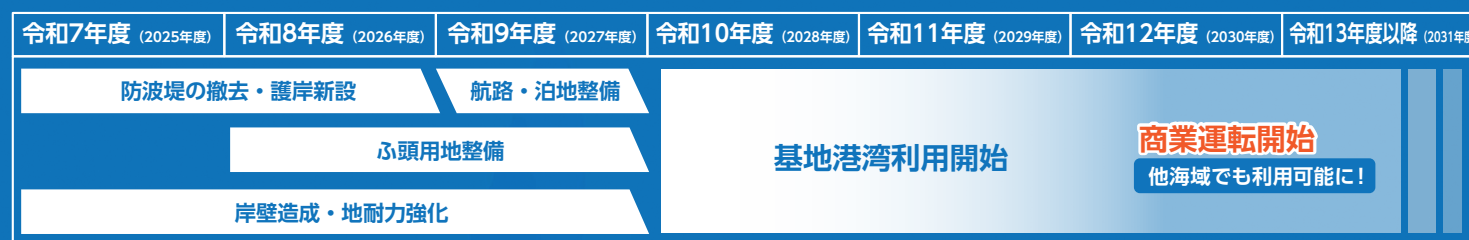
青森港は、洋上風力発電の拠点としてだけでなく、陸路・空路を含めた多面的な交通アクセスに恵まれています。港からは東北自動車道や青森自動車道を通じて東北各地とつながっており、大型部材や資機材の安定した陸送が可能です。また、青森空港へは車で約30分と至近距離にあり、東京・大阪など主要都市との定期便を通じて、国内外からの迅速な人材移動や資材輸送を実現しています。さらに新幹線による首都圏への交通利便性も高く、仙台までは約1時間半、東京へも約3時間でアクセス可能です。こうした、海・陸・空の交通網の結節性は、洋上風力発電設備の建設から運転・保守に至るまでの物流効果を高め、事業の安定性と競争力を強力に支える基盤となっています。



鉄道		
東京	⇄	新青森 約2時間58分
新函館北斗	⇄	新青森 約57分
航空		
東京	⇄	青森 約1時間15分
名古屋	⇄	青森 約1時間20分
大阪	⇄	青森 約1時間30分
台北	⇄	青森 約3時間30分
フェリー		
函館	⇄	青森 約3時間40分
室蘭	⇄	青森 約7時間

## 青森県沖 日本海（南側）商業運転開始までのロードマップ

青森港は令和6年（2024年）4月に「海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）」に指定され、現在は既設防波堤の撤去や護岸新設等のインフラ整備を進めています。令和10年（2028年）度からは、基地港湾として本格的な利用が開始され、令和12年（2030年）6月には青森県沖日本海（南側）で商業運転を開始する予定となっています。また、本県の日本海側に位置する津軽港ではO&M港としての整備が進んでおり、青森県沖の海域における保守・管理拠点として活用される見込みです。



青森港・津軽港のPR動画も御覧ください

お問い合わせ先

**青森県 県土整備部 港湾空港課**  
〒030-8570 青森県青森市長島1-1-1  
TEL 017-734-9675 FAX 017-734-8194  
kowan@pref.aomori.lg.jp

**青森市 経済部 新産業支援課**  
〒030-0801 青森県青森市新町1丁目3-7  
TEL 017-718-0626 FAX 017-723-5586  
shin-sangyoshien@city.aomori.aomori.jp

# 稲巻港実



AOMORI  
wind power  
base port

“青森港新時代”に向けて

# 組立と保管の自由度



油川埠頭は、洋上風力発電設備の大型部材や長尺ブレードを安全に仮置きできるヤードを備えています。平坦で耐荷重性に優れた地盤は、大型クレーンの稼働や部材の一部組立にも対応可能です。これにより、基地港湾内でのプレアッセンブリがスムーズに行え、海上輸送前の準備を効率化します。

ヤードは岸壁から近接して配置されており、陸揚げ後すぐに搬入できる動線が確保できます。また、堤埠頭は基地港湾の補完施設として役割を担っており、はしごやポートフェンダー等の付帯設備の仮置きとして使用できます。



油川埠頭  
約**18.6ha**  
堤埠頭  
約**3.0ha**

港湾基地能力を支える青森ならではの特徴とは…

# 基地港湾としての仕様を満たした接岸能力

青森港は、SEP船の接岸を想定し、国の指定を受けた海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾（基地港湾）となっています。

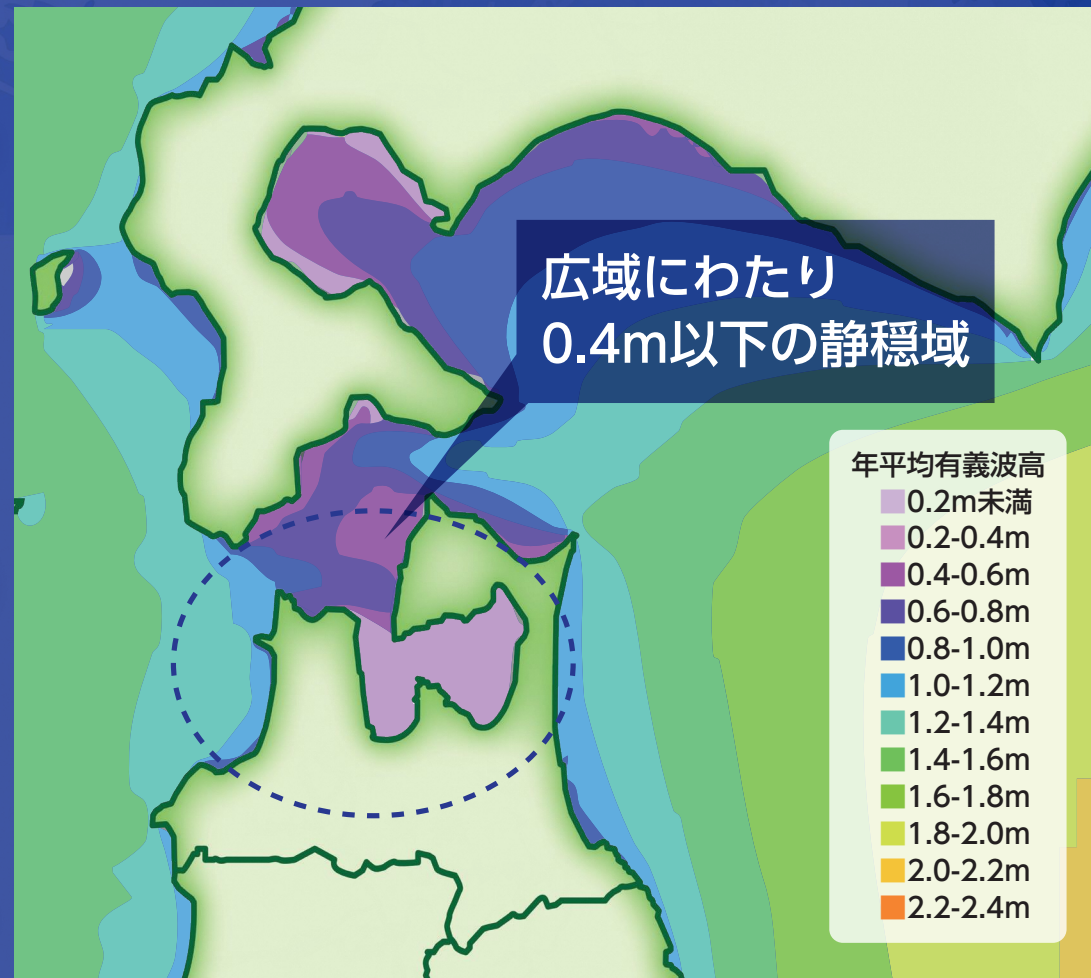
また、地耐力の強化は国の指針に則り行われており、洋上風力発電設備の重厚長大な部材を安全かつ効率的に荷揚げできる基盤が整っています。

港内の静穏度の高さと相まって、安全な荷役が可能となっています。



水深**12m** 岸壁延長**230m**

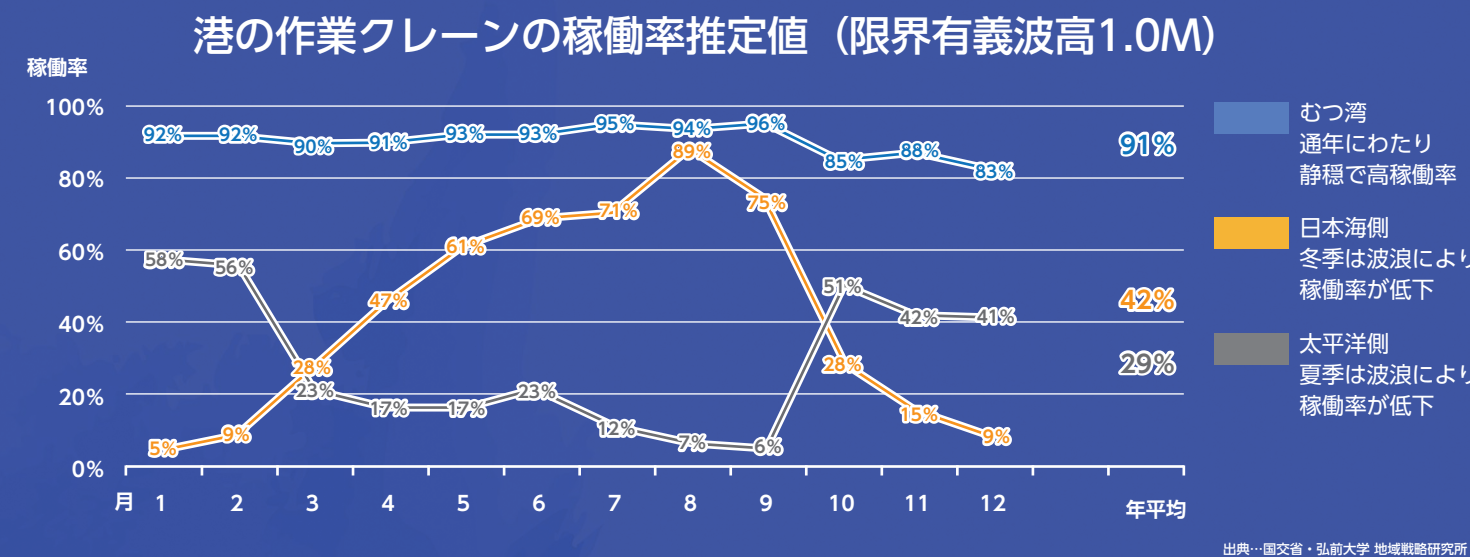
# 静穏性



# 工程遅延リスクの大幅低減

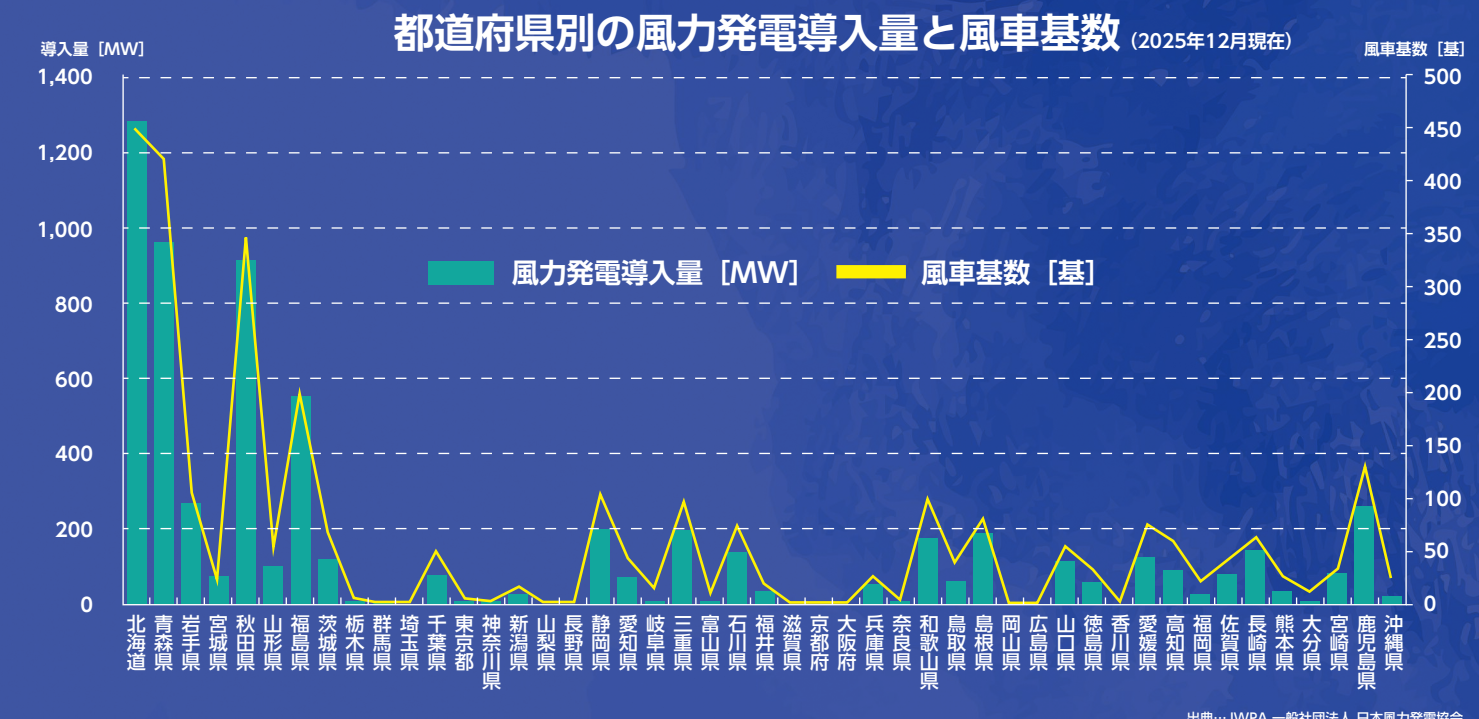
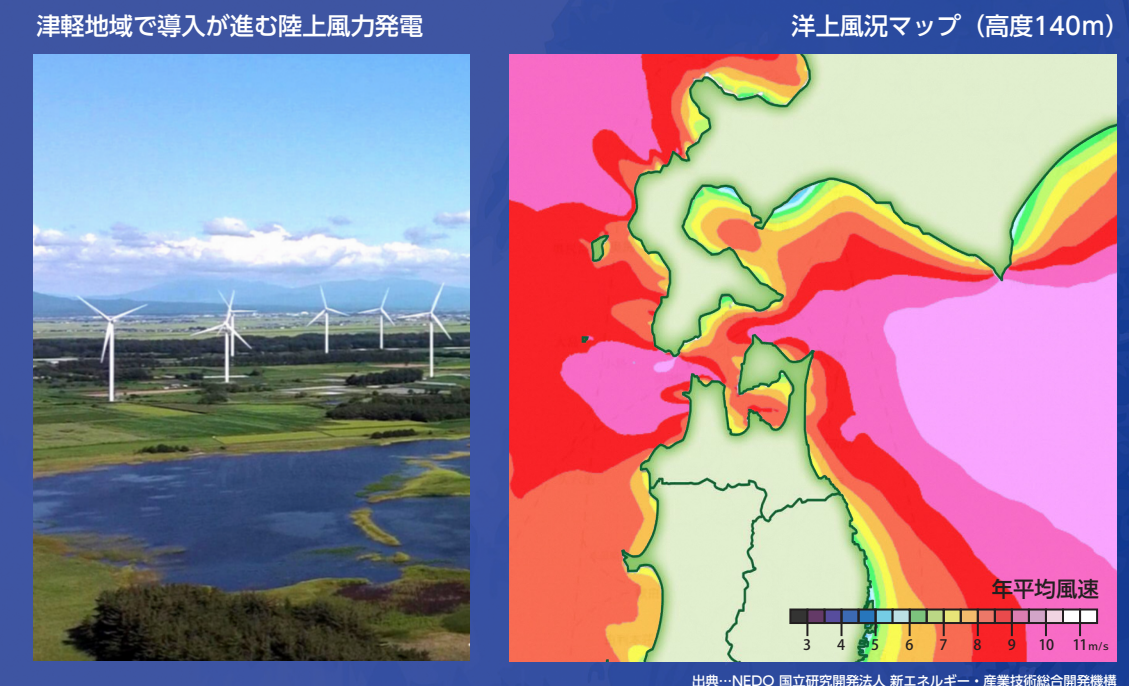
青森港は、湾奥部に位置する地理的特性により、外洋からの直接的な波浪の影響を受けにくく、高い静穏性を有しています。近年の気象・海象データをもとにしたシミュレーション分析でも、波高が1.5mを超える発生頻度は極めて低く、施工・運搬に適した条件が年間を通じて確保されていることが確認されています。

特に基地港湾において、タワーやブレードなどの風車部材を搬入・積出する際には、波浪の安定性が工程効率に直結します。青森港の静穏な海域は、作業中断や工程遅延のリスクを大幅に低減させ、安定した施工環境を提供するという強みを持ちます。さらに、多様な観測データを比較した結果でも、青森港周辺は風速・波高の変動幅が小さく、他地域に比べて作業可能日数が安定的に確保できることが示されています。これらの優位性は、長期的な再生可能エネルギー拠点としての信頼性を高めるとともに、洋上風力発電関連企業にとって安全かつ効率的な拠点整備を実現する基盤となります。



# 風に恵まれ、動かし続ける力

青森県は、風力発電の導入実績において全国をリードする地域です。稼働している20kw以上の風力発電設備の合計出力は79.4kwに達し、政策支援と豊富な風力エネルギー資源を背景に着実な成果を積み上げてきました。県内の再生可能エネルギーによる発電量は、年間約343万MWh、そのうち風力発電だけで約148万MWhを占めています。これは青森県全体の電力需要の約43%を再生可能エネルギーでまかなう規模に相当し、安定した電力供給を可能とする大きな基盤となっています。さらに、沿岸部や陸上に広がる優れた風況環境は、新たな導入拡大の潜在力を備えており、洋上風力を含む次世代再生可能エネルギー拠点としての発展性を強く示しています。確かな導入実績と風況に恵まれた自然条件が相まって、青森は全国でも有数の風力発電の適地として、今後の再生可能エネルギー推進の中核的な役割を担っています。



# 導入実績